

VOICES from the ARCTIC

Vol.24 / 2023.5.15

ArCS II 国際政治課題
北極域実践コミュニティ事務局



地球温暖化で変わるカナダの 北方林とツンドラ



地球温暖化は北方林に影響を与えている。何が起こるかは、気候、植生、山火事の頻度や強さによって異なるだろう。北部の変化としては、北極圏の緑化や褐変と呼ばれる葉の成長の増減、低木の成長の拡大、樹海の移動などがある。火事、気候、時間の相互作用が、今日のフォレスト・ツンドラの性質を決定し、気候変動に対応してどのように変化するかを決定する。

記事参照：Global warming is changing Canada's boreal forest and tundra - ArcticToday (2023.3.7/Arctic Today)



Caribou cross the Leaf River in Northern Quebec in 2007. (Lester Kovac / CC 3.0 via Wikimedia Commons)

グリーンランドの女性たち、 1960年代のデンマークの少子 化対策キャンペーンの清算を 求める



1966年から1970年にかけて、デンマークの保健当局が発動させたグリーンランドでのいわゆる「避妊リングキャンペーン」で、グリーンランドの妊娠可能な女性の約半数（13歳の少女も含む）が子宮内避妊具（IUD）を挿入された。最近発見された文書やキャンペーンの対象となった女性たちの証言によると、女性のほとんどは何が起こったのか気づいていなかったことや、介入に同意していなかったことがわかっている。幼い少女の親が関与すべきなのに、関与していないケースもあった。影響を受けた人の多くが、激しい痛み、その後の合併症、不妊症に苦しんだという指摘がある。

記事参照：Greenland women seek a reckoning for a 1960s Danish campaign to reduce births - ArcticToday (2023.3.29/Arctic Today)

バイデン政権、アラスカで大規模なウィロー石油プロジェクトを承認



バイデン政権は、コノコフィリップス社がアラスカで進めている70億ドルの石油・ガス掘削「ウィロー」プロジェクトを縮小して承認すると、米国内務省が月曜日に発表した。アラスカ当局や石油業界からは歓声が上がったが、環境保護団体からは批判の声が上がっている。

記事参照：Biden administration approves massive Willow oil project in Alaska - ArcticToday (2023.3.13/Arctic Today)

ロシア、北極海航路の利用拡大ヘインドと協議＝インタファクス

ロシアとインドは北極海航路の利用拡大を検討しており、これにはインフラ施設の建設も含まれる可能性がある、ロシアのインタファクス通信が29日に報じた。ロシアのチェクンコフ極東・北極圏発展相が訪問先のインドで、同国政府当局者と会談し、北極海航路を通じた両国の港間の「信頼性と安全性」の高い物資輸送という重要課題について議論したという。

記事参照：ロシア、北極海航路の利用拡大ヘインドと協議＝インタファクス | ロイター (reuters.com) (2023.3.29)

バイデンはウィローの石油プロジェクトを拒否する "強い意志" を持っていた



バイデン米大統領は、金曜日のオタワでのカナダのジャスティン・トルドー首相との記者会見で、アラスカでのウィロー石油プロジェクトを不承認とする「強い意志」を持っていると述べた。バイデン政権の内務省が承認したのは、掘削場所を3カ所とし、地上インフラを当初案より少なくする縮小版で、内務省によれば、ホッキョクグマやハシビロコウなどの絶滅危惧種の生息地への影響を軽減するのに役立つとされている。

記事参照：Biden had 'strong inclination' to reject Willow oil project - ArcticToday (2023.3.27)

【概要報告】北極サークル日本フォーラム本会議（第1日）



笹川平和財団海洋政策研究所は、3月4日（土）から3月6日（月）にかけて、ARCTIC CIRCLE事務局および日本財団と「北極サークル日本フォーラム」を共催した。
記事参照：【概要報告】北極サークル日本フォーラム本会議（第1日） | 海洋政策研究所-新着情報 | 笹川平和財団 - THE SASAKAWA PEACE FOUNDATION (spf.org) (2023.3.5)

英、ノルウェー極北に軍事基地開設

英国は8日、ロシアと国境を接するノルウェー北極圏に軍事基地を開設したと発表した。ロシアによるウクライナ侵攻を受け、同地域における北大西洋条約機構（NATO）の軍事力強化に寄与する狙いがある。新基地は「キャンプ・バイキング（Camp Viking）」と名付けられた。英海軍は海兵隊特殊部隊の拠点として運用されると説明。同部隊は「北極圏におけるやりの穂先」の役を担い、「極寒の環境下での作戦が必要な時の頼みの綱」になるとしている。

記事参照：英、ノルウェー極北に軍事基地開設
写真1枚 国際ニュース：AFPBB News
(2023.3.9/AFP BB News)

フィンランド政府、先住民サーミ人を気候変動から守るための専門家組織を新設へ



フィンランド環境省は、同国政府が北部の先住民族サーミ人の文化と権利を重視した気候変動への取組をめざす新たな独立組織「サーミ気候評議会」に関する政令を採択したと報告した。北極圏の環境と密接に結びついた文化や生計手段を持つサーミ人は、気候変動に対してとりわけ脆弱である。北極圏の温暖化は世界の他のどの地域より急速に進んでおり、サーミ人の文化と権利という観点を気候政策に盛り込むことが必要とされている。

記事参照：フィンランド政府、先住民サーミ人を気候変動から守るための専門家組織を新設へ | 環境ニュース[海外] | EICネット

(2023.3.28/一般財団法人環境イノベーション情報機構)

『北極域実践コミュニティ VOICES from the ARCTIC』は、北極域実践コミュニティの情報発信の活動の一環として、北極域の多岐にわたる社会的課題やその解決に向けた取組に関連するニュースを集めて、ダイジェストしたものです。北極域の社会的課題と世界的な課題との関連性を示すため、国際連合『持続可能な開発目標（SDGs）』の17の目標との対応関係を各ニュースに付しています。

Vol.24は、2023年3月のニュースを掲載しています。

バイデン政権が大規模なウィロー石油プロジェクトの承認を決めたこと対し、注目が集まった3月のニュースでした。環境保護に対する取り組みが進みつつも、エネルギー源確保とのバランスも求められる状況にあることがうかがえます。

発行元：ArCS II 国際政治課題 北極域実践コミュニティ事務局
監 修：大西富士夫（北海道大学北極域研究センター）
E-mail：tdcop@arc.hokudai.ac.jp
WEBサイト：https://tdcop.arc.hokudai.ac.jp/

